



北海道新幹線 × nittan 地域戦略会議
H29年度事業案

2017.4

nittan



index

1	事業推進方針	02
2	2017 年度事業骨子案	03
3	情報戦略事業①	04
	情報戦略事業②	05
	情報戦略事業③	06~07
4	観光戦略事業①	08
	観光戦略事業②	09
5	交通戦略事業①	10
	交通戦略事業②	11
	交通戦略事業③	12~13
6	Discover nittan Project について	14

1 事業推進方針

重点戦略

nittan地域戦略会議の活動の軸である情報戦略・観光戦略・交通戦略の3つの戦略を中心とした事業展開を継続します。また、これらの事業の実施過程において「総合的地域間連携」を推進し、nittan地域内で活動する各種団体・機関との連携をさらに強化していきます。

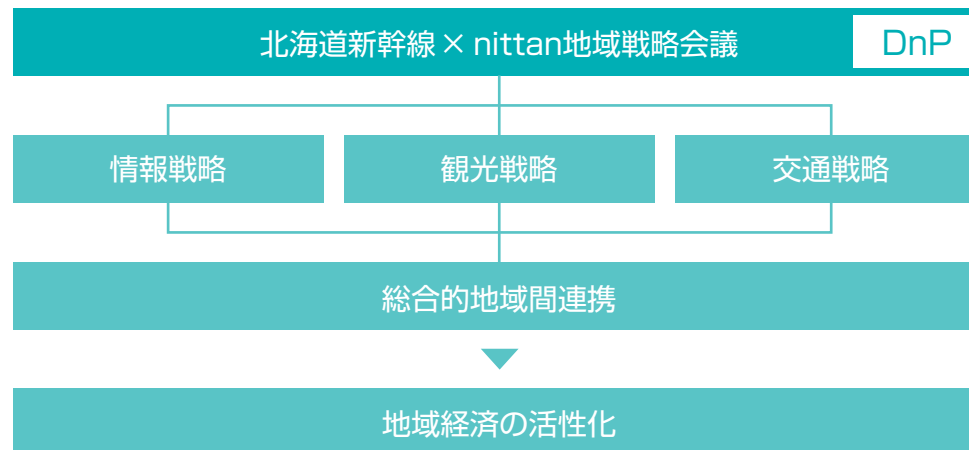
また、民間主体のプロジェクトチームとして別組織で活動してきた Discover nittan Projectについては、今後 nittan地域戦略会議のサポートメンバーとして組織を統合・再スタートし、nittan地域戦略会議の事業とより密接な連携を目指します。

目標期間

昨年度実施した観光行動意識調査の結果などから、今後の日胆地域への誘客促進には、継続的なPR活動による認知度の向上が欠かせないことが分かりました。

2030年度に予定される札幌延伸に際し、この地域が空白地帯にならないためにも、「目的地として nittanエリアを選択させる力」を地域一丸となって高めていくことが重要であるといえます。まずは、この地域にとっての大きなトピックスである2020年の民族共生象徴空間開設をひとつの目標時期と位置づけ、地域全体で認知度の底上げに取り組みます。

事業推進戦略図



事業推進スケジュール



情報戦略事業

誘客プロモーション事業

nittanDictionary・web を活用した企画

JR 北海道わがまちご当地入場券を活用したプロモーション

} プロポーザル実施

観光戦略事業

明治150年記念北海道土木遺産森蘭航路磨き上げ事業

旅プロデュース部特別ゼミ開講支援事業

交通戦略事業

新幹線開業・延伸による交通アクセス調査

幹線道路を活用した地域間連携促進事業

nittan バスマップの作成

誘客プロモーション事業

エリアの認知度を高めるため、
道内外でのプロモーションを実施

今後プロポーザルにより
企画提案を受け詳細を決定

【1】道内イベントへの出展

北海道内のイベントへの出展等によるプロモーション

→ 3 企画以上

【2】道外イベントへの出展

北海道外のイベントへの出展等によるプロモーション

→ 2 企画以上

うち参加が決定しているイベント

- 食の宝庫みなみ北海道・北東北 食旅フェスタ in 仙台（仮称）

時期：11 月 18,19 日（予定）

会場：宮城県仙台市勾当台公園

【3】地域間連携促進に資するプロモーション

独創的かつ話題性のある企画の実施により、地域内の連携機運の向上を図る。

3 情報戦略事業②

「nittanDictionary」や 「nittanweb」を活用した 新たなプロモーション企画

今後プロポーザルにより
企画提案を受け詳細を決定



平成 28 年度にリニューアルした
「nittanDictionary」とポータルサイト化
した「nittan web」の活用事業

POINT1

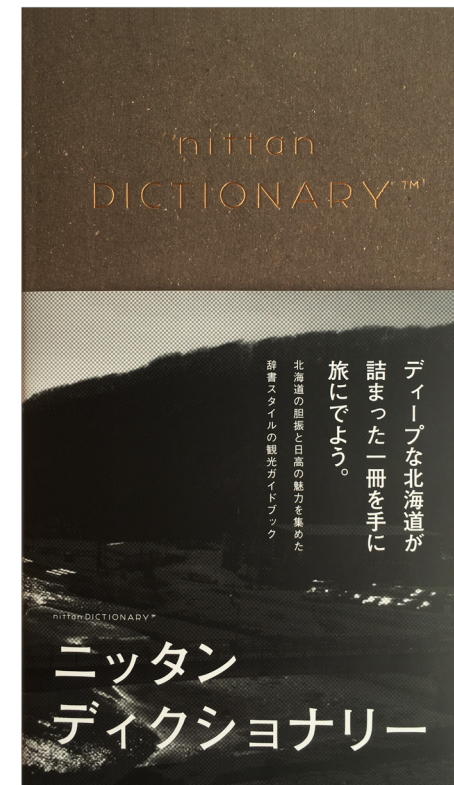
nittan 地域戦略会議が有する上記2ツ
ールを活用し、キャンペーンやコンテスト等
の新たな企画を実施

POINT2

日胆エリアへの来訪者の増加と周遊促進に
つながるような企画を想定

POINT3

これらの企画と連動し、web の掲載情報
の充実化を目指す



新版 nittanDictionary

わがまちご当地入場券を 活用したプロモーション



JR 北海道が企画する「JR 北海道わがまちご当地入場券」を日胆 18 市町で作成。地域話題を発信するとともに、周遊促進につなげる。

POINT1

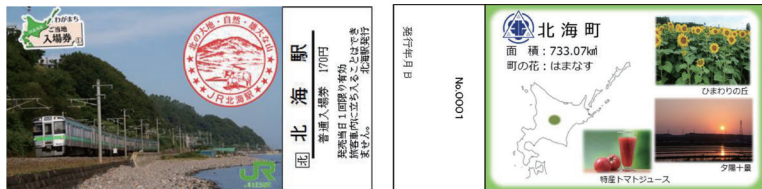
入場券裏面に統一感のあるデザインを採用し、18 市町の連携を PR。

POINT2

18 市町分を集め、コレクションしたくなるようなデザインにすることで、周遊促進を図る。

POINT3

JR 駅がない管内 3 町分（壮瞥町・平取町・えりも町）は、本物そっくりの入場券を nittan 地域戦略会議が作成し、各町の観光施設等で限定配布。



切符見本様式【表面】

切符見本様式【裏面】

3 情報戦略事業③

わがまちご当地入場券について

入場券の設定

この入場券は、JR 北海道の駅が存在する自治体において、1 回につき 1 市町村 1 駅 1 種類設定することから開始されます。

入場券を発売する場所

入場券を発売する駅がきっぷの取り扱いをしている駅の場合は、駅のきっぷうりば（「みどりの窓口」など）で発売されます。きっぷの取り扱いをしていない駅の場合は、同一市町村内の駅のきっぷうりば、あるいは入場券の券面に表示する駅至近の施設・商店等での委託発売なども含め、対応方法を JR 北海道と相談することができます。

入場券のデザイン

表面は、該当する自治体の沿線で撮影された鉄道風景等が図柄となります。（JR 北海道にて画像の選定・校正）

裏面は、賛同する自治体に、基本的には以下の項目でデータを作成し、JR 北海道で内容の確認を行い、図柄を決定します。

自治体で準備するデータについては、JR 北海道の入場券として発売される前提で、権利・許諾関係に留意すること。なおキャラクターの使用は NG

裏面の基本項目（一例）

- 市町村の名称 ●市（町・村）章 ●面積や「市（町・村）の花」などの基本情報
- 観光地や風景、ご当地グルメ、特産品などの画像、コメント等
- 北海道の白地図を利用した所在地地図 ●駅のホームに設置している「名所案内」標の画像

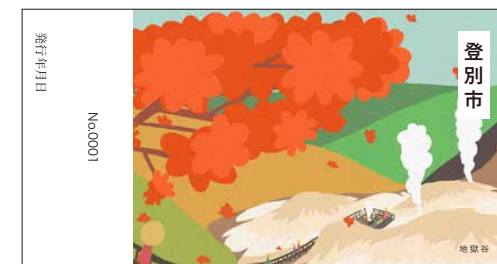
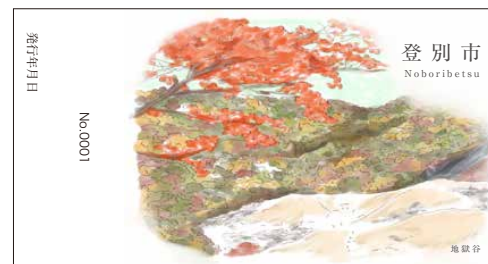
入場券の作成経費

作成に要する経費（最終校正、印刷、裁断等の費用）は、JR 北海道の負担。（裏面のデータ作成経費は自治体の負担）

その他

「入場券」は発売数量を限定せず、当面の間、継続的に発売されます。第 1 回の発売は 7 月頃に予定されています。

デザイン案



各市町の名物や景勝地などをモチーフとしたイラストを裏面デザインにする予定。

明治150年記念 北海道土木遺産森蘭航路 磨き上げ事業



H27 年度から取り組んでいる「森蘭航路」の商品化事業を H29 年度も継続。

H29 年度はモニターツアー本数を増やし、より多くのツアー参加者からの声を募る。



POINT1

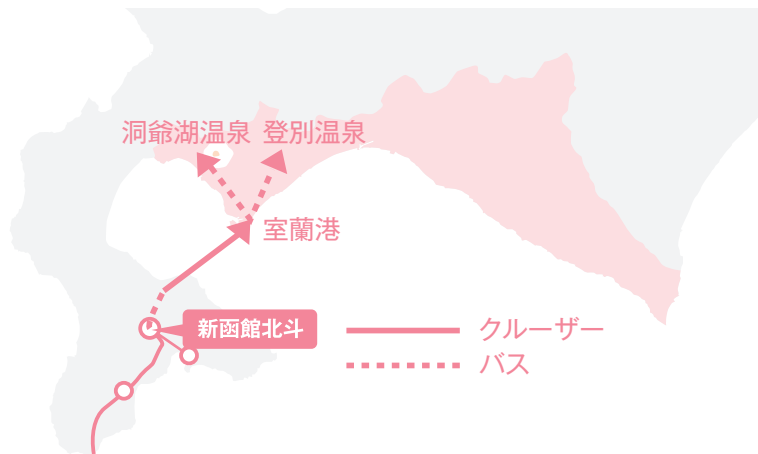
地域固有の歴史やストーリーに乗せたルート形成を目指し、森蘭航路と伝統芸能、体験メニューのパッケージ化に取り組む。

POINT2

2018 年度の明治 150 年に向け、明治の北海道開拓の礎となった森蘭航路ツアーを記念事業という位置づけで実施。

POINT3

モニターツアーの結果を踏まえ、次年度春夏商品化に向けた売り込みを行う。



旅プロ特別ゼミ 開講支援事業



大学生と連携し若者旅行の促進に取り組む「旅プロデュース部」が、札幌国際大学において「特別ゼミ」として授業化。



POINT1

年間を通して胆振・日高それぞれの観光資源を学習し、理解を深める。

POINT2

若者の旅行の動機付けとなる「SNS 栄えする撮影スポット」を切り口に、周遊促進策を検討。

POINT3

地域の人との交流を重視した取り組みにすることで、学生の企画力・課題解決能力を養い、将来的に地域の観光振興において活躍できる人材の育成に取り組む。

新幹線開業・札幌延伸による交通アクセス調査



JR 室蘭本線を通る札幌－函館間の特急列車は、北海道新幹線を利用して北海道を訪れた観光客や洞爺湖・登別などの西胆振を訪れるインバウンドが多く利用している現状から、日胆エリアの周遊を促進する上で生命線とも言える重要な路線となっている。

一方で、北海道新幹線札幌延伸後は、太平洋側沿線の鉄道の衰退の可能性が指摘されていることから、現在の日胆エリア周遊における各種交通手段の利用状況等を調査し、今後の誘客戦略検討に必要なデータ収集を行う。

主な調査内容

POINT1

北海道新幹線開業後のレンタカー利用状況を調査し、個人旅行客の動きを把握。

POINT2

北海道新幹線が札幌延伸されたときの在来特急（札幌－函館間）の需要予測を行う。

幹線道路を活用した 地域間連携促進事業

【シーニックバイウェイとは？】

シーニックバイウェイ (Scenic Byway) とは、景観・シーン (Scene) の形容詞シーニック (Scenic) と、わき道・より道を意味するバイウェイ (Byway) を組み合わせた言葉。

地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策。(シーニックバイウェイ支援センターホームページより抜粋)



日胆エリア内の幹線道路を軸として、地域内の周遊や連携促進につながるような事業を実施。

【1】日高厚賀インターチェンジ開通 PR

2017 年度中に予定される高規格幹線道路日高自動車道・日高厚賀インターチェンジ開通に向け、nittan 地域戦略会議が出展するイベント等で PR 活動を行なう。また、開業セレモニーへも参加し、イベントの盛り上げに資する企画を実施。

【2】インバウンド向け交通安全啓発

日胆エリアでも増加しつつあるインバウンドのドライバーの事故防止のため、多言語標記ののぼり等を幹線道路沿いに設置。安全運転を促す。

【3】シーニックバイウェイのルート構築の可能性検討

日胆エリア内でのシーニックバイウェイのルート構築の可能性を探るため、道内他地域の事例やこれまでの検討経過などを整理。関係者間での知識を深めるための勉強会を開催。

nittan バスマップの作成



日胆エリア内を運行する既存の公共交通ネットワークを可視化し、域内の移動の円滑化を図るため、「nittan バスマップ」を作成。都市間バスとローカル路線バスの乗継状況や、バスの走行ルートと地域内観光資源の位置関係など、ネットワークを明確化することで、周遊促進を図る。

POINT1

構成は全体版と地域別詳細版の2構成

全体版：日胆域内と域外を結ぶ都市間バスなど広域移動に寄与している路線がメイン。

詳細版：西胆振・東胆振・日高に分け、コミュニティバスを含む地域内を運行するバス路線を整理。

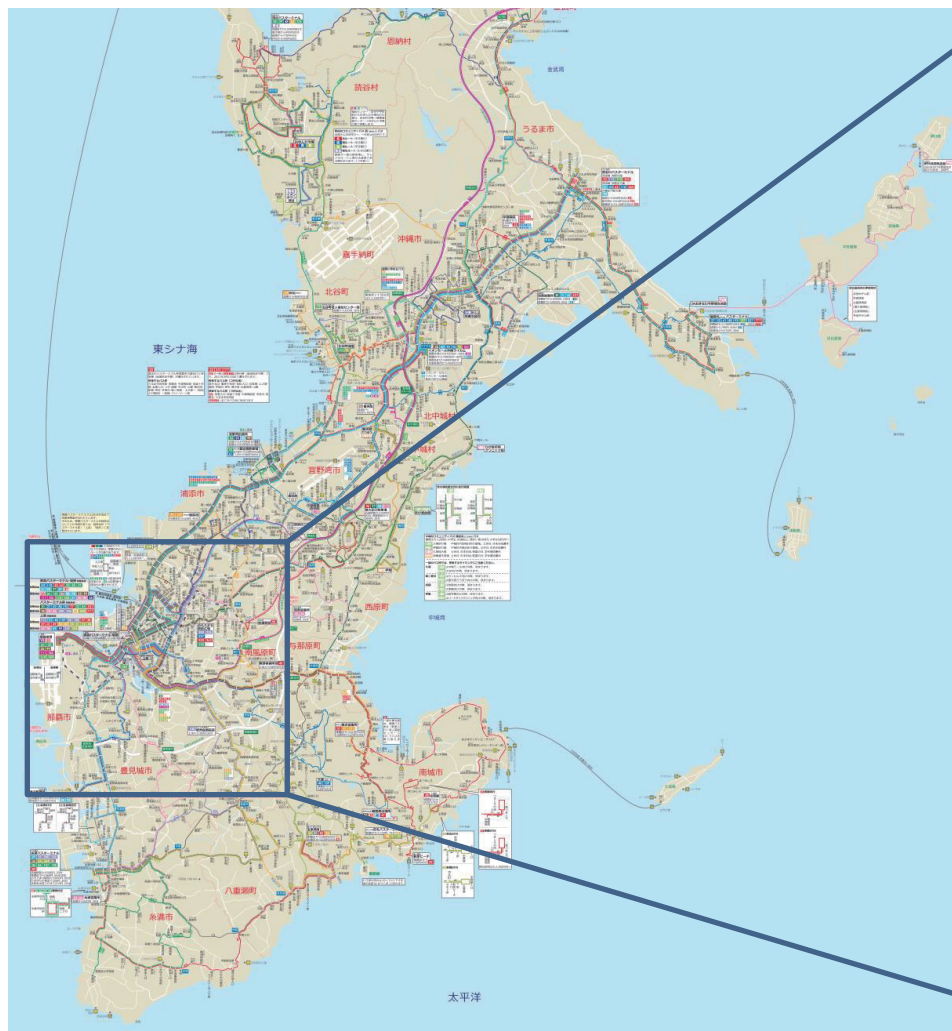
POINT2

地域別詳細版には、可能な限り地域の観光資源に関する情報を盛り込む。ターゲットとしては、個人旅行者を強く意識し、バス路線と周辺施設を併せて発信することで、当初の目的地以外へも立ち寄りたくなる仕掛けづくりを行う。

POINT3

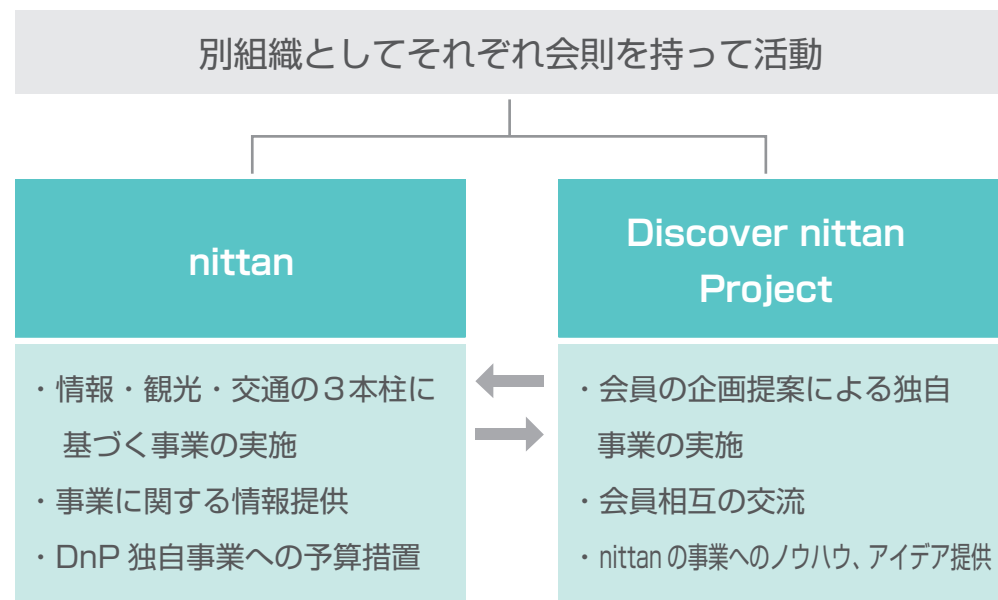
北海道新幹線札幌延伸を見据え、道央圏からのアクセシビリティ向上に向けた検討材料のひとつとしても活用する。

参考事例【沖縄県バスマップ】



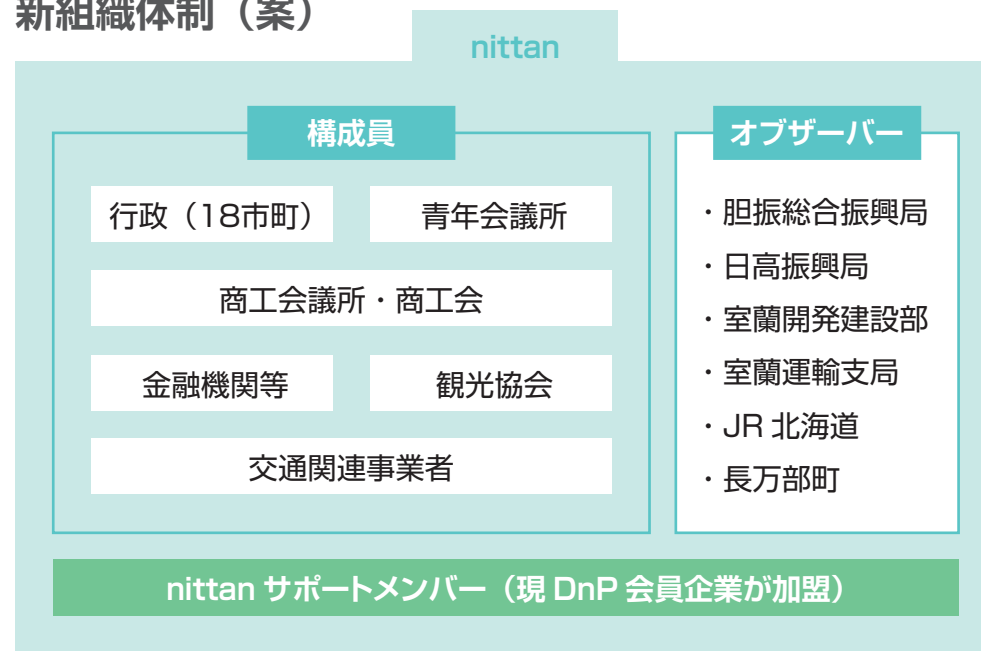
6 Discover nittan Project について

現組織体制



	nittan	DnP
設置要項	有り	有り
設立年月日	H25.10.3	H26.7.23
会費・負担金	自治体のみ有り	年会費 1 万円
財源	自治体負担金、各種補助金	会費、一部 nittan 事業費から

新組織体制（案）



- 新組織における nittan サポートメンバーの位置づけ
→ nittan が実施する事業への参加・協力・意見提案
- 会費について
→ 会費負担はないものとする
- 今後の進め方について
→ 5 月中をめどに書面総会により新たな組織体制に移行することについて採決を行う。